

ポスター | 1-14 成人先天性心疾患

ポスター

成人先天性心疾患：チアノーゼ疾患

座長:坂崎 尚徳 (兵庫県立尼崎病院)

Fri. Jul 17, 2015 2:20 PM - 2:50 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

II-P-117~II-P-121

所属正式名称: 坂崎尚徳(兵庫県立尼崎病院 小児循環器内科)

[II-P-121]成人先天性心疾患患者におけるシスタチン Cの有用性の検討

○根岸 潤¹, 大内 秀雄^{1,2}, 則武 加奈恵¹, 佐々木 理¹, 宮崎 文², 山田 修² (1.国立循環器病研究センター 成人先天性心疾患科, 2.国立循環器病研究センター 小児循環器科)

Keywords:成人先天性心疾患, シスタチンC, 推定糸球体濾過量

【背景】血清シスタチン C (CysC) は年齢、性差、筋肉量の影響を受けない腎機能マーカーで、心不全患者における予後予測因子であるが、成人先天性心疾患患者 (ACHD) における CysCの有用性の検討はない。【方法】2013年4月から2014年12月に当科に入院した ACHD患者のうち CysCと血清クレアチニン (Cre) 24時間 Creクリアランス (24h-Ccr) を同時に測定した85人 (年齢 29.7 ± 8.2 歳、男性57.6%、BMI 21.13) を対象とした。CysCおよび Creを用いた推定糸球体濾過量 (eGFRcys, eGFRcre), 24h-Ccrを算出し比較した。また腎機能と心事故 (死亡、心不全および不整脈による入院) について検討を行った。【結果】基礎心疾患は二心室修復術後51%、Fontan手術後35.3%、未修復例13%、Eisenmenger1%。観察期間 5.8 ± 4.0 か月で7人に心事故 (死亡2、心不全2、不整脈3) が認められた。eGFRcre、eGFRcys、24hr-Ccrは互いに相関 ($r = 0.66 - 0.76, p < 0.01$) を認め、各々 94.6 ± 29.7 、 89.0 ± 25.0 、 79.7 ± 28.1 ml/min/1.73m²で24h-Ccrに比し eGFRcreが平均14.8、eGFRcysが平均9.3高かった ($p < 0.01$)。24hr-Ccrと eGFRcreの差はBMIと関連 ($r = -0.29, p < 0.01$) し、年齢、性別、Creとは関連がなかった。24hr-Ccrと eGFRcysの差はBMI、年齢、性別、Cre、Cysと関連がなかった。単変量解析で eGFRcre (HR 0.93, 95%CI: 0.89 - 0.97)、eGFRcys (HR 0.95, 95%CI: 0.91 - 0.96)、24hr-Ccr (HR 0.92, 95%CI: 0.88 - 0.96) はいずれも心事故を予測した ($p < 0.01$)。eGFRcre ≥ 60 ml/min/1.73m²の患者においても eGFRcre (HR0.85, 95%CI: 0.75 - 0.96)、eGFRcys (HR 0.92, 95%CI: 0.87 - 0.98)、24hr-Ccr (HR0.92, 95%CI: 0.88 - 0.97)は心事故を予測した。【総括】ACHDにおいて eGFRcreは痩せた患者において腎機能をより過大評価するが、eGFRcysは体格の影響を受けない腎機能評価が可能であった。今回の検討では心事故予測における eGFRcysの優位性は確認できなかった。